

テーマ別研修会の報告

研修部

今年も290名の参加を得て、研修部のテーマ別研修会がもたれました。

本年度は、「早い時期の開催を」という参加者からの希望に添って、夏休みに実施となりました。

第1分科会は、初めてのテーマ「視覚の機能」についてオプトメトリスト（視覚療法士）の北出先生を迎えて、チェック方法からトレーニングまで教えていただき障害の改善に向けて2学期からの参考になったとの意見が多く寄せられました。

第2分科会は、「軽度発達障害児の行動」について特別支援教育士スーパーバイザーで現場の指導もされている岸本先生の講演でした。100名を超える参加者で、切実な思いが伝わってくるようです。教室でさまざまな行動を見せる子どもたちの理解と対応について研修しました。校内で協同した取り組みを作り出すことの大切さとそのための方法として共有できる資料づくりや手だての考え方について、大いに参考になったということです。

第3分科会は、「青年期」を迎える子どもたちの課題です。2次障害として不登校や非行といった問題を抱えていくことのないようにとは、われわれの共通の思いです。「決して早すぎることはない。決して遅すぎることもない」と粘り強く少年院で取り組まれた向井先生の実践は、感動的でした。

「自閉症」について、第4分科会ではその特性に即して環境整備や教具の紹介も含めての金井先生のお話でした。もっと時間がほしかったという感想がたくさん寄せられました。

第5分科会は、特に脳性マヒについて概論を学びました。具体的な指導法についてももっとお聞きしたいと、研修会が終わっても下嶋先生への質問が相次ぎました。

毎回参加者が増えている「性に関する課題」の第6分科会。「思春期をどう乗り越えるかで人生が決まる」とさえ言える子どもたちのこの問題に、保護者と学校が連携して取り組んでいくことの大切さを認識しあいました。保護者の立場から、また相談員として活動されている中村先生、大橋先生の助言が大変参考になりました。参加者がそれぞれ抱えている問題を出し合えて学ぶことができました。

